岩手小学校

「学力向上につながる評価の工夫」

Ⅰ　研究の内容

1　研究仮説

・教師・児童・家庭が、それぞれ学習を意識して評価を続けることで学力向上が、図れるだろう。

2　研究の内容

○英語科において、重点化・系統化された年間評価計画を作成していく。

・昨年度作成した、学年ごとの４領域具体的評価規準を見直す。

・評価の重点化を系統性と照らし合わせながら検討する。

・各時間の評価を考え、実践授業をする。

○学力向上のための取り組みを考え、実践していく。

・思考力・判断力・表現力向上のための「発問の工夫」についての研修と実践授業

・教師が思考力・判断力・表現力をつけさせるための目標となる評価項目

・児童の自己評価項目

・家庭の学習に対する意識を向上させるための評価項目

3　研究の方法

〈　授業研究　〉

・校内授業研究を持ち、検証し、研究を深めていく。

・「英語科部会」「学力向上部会」の２ブロックで、研究を進めていく。

・指導主事を招聘して各ブロック１回ずつの研究授業を実施する。

・一人一実践の授業を計画し、参観を呼びかける。

〈　全体研究　〉

・研究会の始めには、必要に応じて全体会を持ち、研究の交流をしていく。

・「発問の工夫」についての学習会を持つ。

外部講師を依頼する。（１回）

雨宮先生を講師とした学習会を持つ。（１回 ）

〈　児童の英語科実態調査　〉

・年間で１回（後半）に実施する。

Ⅱ　成果と課題

1　成果

・学力向上につながる学習内容以前の準備・態度についての評価項目を作ることができた。

・評価に焦点を当てて研究するというのは研究の方向としてふさわしいと思う。評価をするためには，評価に値するねらい，授業の流れ，指導がなくてはならない

し，子どもの姿をどう見ていくかという視点も学ぶことになる。子どもたちや家庭への評価の視点をもたせるという取り組み（今年度は全体の共通理解には至らなかったと思うが）もよかったと思う。

・研究会での情報を日々の授業実践に取り入れたり、評価項目を視覚化したり、保護者に向けてたよりの発行や PTA での確認事項が作れた。「アウトメディアにチャレンジ」も、効果的だったと思う。今後も、継続することで、学力向上につなげていきたい。

・一歩ずつだが学習の意識を高めることにつながっていると思う。

・教師は評価を意識することで、ねらいや活動内容も明確になった上で従業に臨めた。そのことを続けていくことで学力向上につながっていくと思う。

・それぞれの部会で研究が深められたと思う。

・一人一実践は必要だと思う。自分がやってみてこそ分かることがある。

2　課題

・仮説は妥当だと思うが，何をどう評価するのかという視点をはっきりさせることが必要だと感じた。指導案にも評価の視点が記されなければ仮説の検証が難しい。

・2つの部会に分かれたが，それぞれの交流があまりなく，自分が所属していない部会の中味がよくわからなかった。

・日常の授業が何より大切であると思っている。研究授業のときだけ取り組んだのでは，教師も子どもも変わらない。研究主題を常に意識した授業を日々仕組んでいくことが大切だと思う。

・まず、個々の実践と情報交換から学んだことを取り入れていくことができた。全校で取り組む共通のことを作ることも必要だったのかもしれない。

Ⅲ　成果物

1　授業実践

1学年「２０より大きい数」	竹川きよみ教諭
2学年「クリスマスを楽しもう」	関口若子教諭
3学年「ちいちゃんのかげおくり」	雨宮久教諭
4学年「いっしょに遊ぼう」	小野眞理子教諭
5学年「わたしたちの学校」	飯室林教諭
6学年「拡大図と縮図」	山宮将仁教諭
おおぞら教室「答えはいくつ？」	津野千尋教諭
さくらんぼ教室「わかりやすく説明しよう」	樋口仁美教諭

2　成果物

（1）　アウトメディアチャレンジカード

（2）　山梨市英語科全単位時間計画【岩手小プラン】　（研究主任　小野眞理子）